

ワークショップ(第16回)概要

○日時 2026年3月2日(月) 13時30分から16時15分

○場所 プリムローズ大阪(一部オンライン参加)

○議題 ・ユニバーサルデザインの取組記録誌の概要説明

・取組記録誌に対する意見交換

・メンバー全員から振り返りコメントを発表

○出席者

エキスパート	石塚裕子			
お困りごと当事者 19人	車いす使用者	6人	発達障がい者(親と参加)	1人
	視覚障がい者	2人	発達障がい者の親	1人
	聴覚障がい者	2人	LGBTQ+	1人
	精神障がい者	1人	医療的ケア児(親と参加)	2人
	知的障がい者(親と参加)	1人	子育て世帯	1人
	知的障がい者の親	1人		
作り手企業	株式会社サイエンス、株式会社シブタニ、TOTO 株式会社			
業務受託者	株式会社アクセスムーブコンフォート、株式会社東畑建築事務所 株式会社乃村工藝社・三菱UFJリサーチ&コンサルティング共同企業体			
傍聴	国土交通省近畿地方整備局 大阪府都市整備部住宅建築局建築環境課、大阪府福祉部			

○配慮事項

資料のワードテキスト文書(事前送付)、単独来場の視覚障がい者を駅から誘導、手話通訳、UDトーク

○議事要旨

● ユニバーサルデザイン取組記録誌の概要説明

事務局からユニバーサルデザイン取組記録誌の作成の目的と概要を説明した。その後、作り手企業の株式会社TOTOからみんなトイレのアンケート結果を報告した。

● 取組記録誌に対する意見交換

当事者、作り手企業、業務受託者及び事務局が6班に分かれ、下記の4つをポイントに意見交換を行い、各班から主な意見を発表した。

① 記録の漏れや認識に間違いがないか。

② 第2章の取組みの項目や内容に漏れなどがいないか。

③ 第3章は、今後の当事者参画による事業の参考となるよう、UD推進チームがワークショップを円滑に進めるため留意、工夫した内容を記載している。ほかに追加した方が良い内容や、こういう工夫がほしかった等の反省はないか。

④ 第4章の取組成果は、UD推進チームが特にレガシーとして広く発信したい内容のため確認してほしい。

● メンバー全員から振り返りを発表

出席者一人ひとりからこれまでの取組みに対する感想を発表した。

大阪ヘルスケアパビリオンUD推進チーム 最終UDワークショップ



令和8年(2026年)3月2日(月)
13時30分から16時30分まで

プリムローズ大阪
2階 羽衣の間

参加メンバー・班分け

■班の構成

	当事者メンバー				作り手	受託者	事務局
A班	車いす使用者	視覚障がい者	知的障がい者と親	-	TOTO	乃村工藝社 アビ AMC	展示
B班	車いす使用者	視覚障がい者	発達障がい者の親	-	サイエンス	乃村工藝社 アビ AMC	建築
C班	車いす使用者	視覚障がい者	知的障がい者の親	子育て世帯	-	乃村工藝社 アテンダント AMC	運営
D班	車いす使用者	聴覚障がい者	LGBTQ+	-	シブタニ	乃村工藝社 アテンダント	運営 接遇
E班	聴覚障がい者	医療的ケア児と親	-	-	TOTO	ビプロジー アテンダント	催事
F班	車いす使用者	発達障がい者と親	医療的ケア児と親	車いす使用者 精神障がい者	TOTO	アビ 東畑	運営 展示



<事務局> 進行:展示 | 名 サポート:建築 | 名、展示 | 名 撮影:接遇 | 名



■オブザーバー

近畿地方整備局、大阪府建築環境課、福祉部、大阪市（元事務局）、アテンダント

会場レイアウト (プリムローズ大阪2階 羽衣の間)

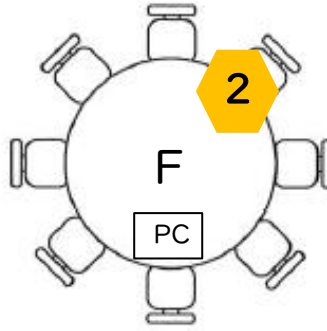
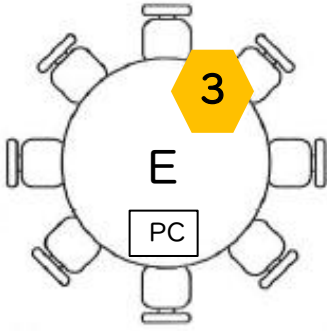
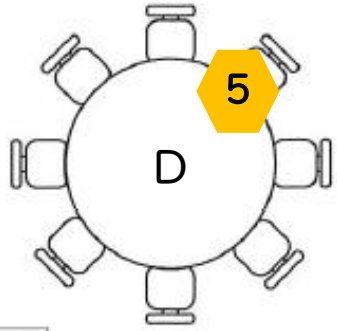
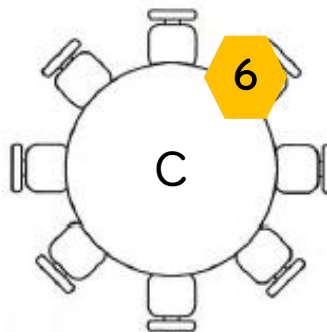
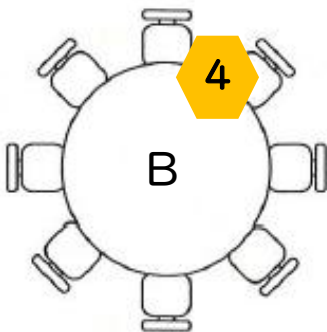
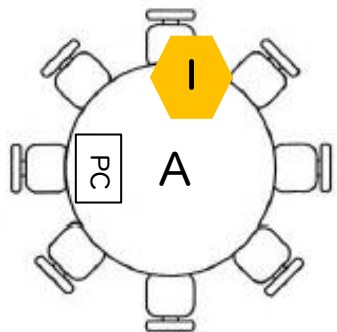
0 振り返りの発表の順番

  いす (数は一致していません)

  エキスパート


事務局+オブザーバー (デスク無し)



前

後

スクリーン

 プロジェクター

  司会

操作卓
デッド
スペース

手話通訳

荷物台 ハンガー

報道関係

受付


入口

本日の流れ（オンライン参加あり）

1. はじめに 13:30 ごあいさつ、進行の確認

2. ワークショップ「ユニバーサルデザインの取組記録誌」

13:35 UD取組記録誌の概要説明（15分）

- ・作成の目的等
- ・意見交換していただきたいポイント
- ・記録誌の構成と概要
- ・みんなトイレ利用調査

13:50 質疑（15分）

13:05 班ごとにディスカッション（20分）

14:25 各班(事務局)から意見交換の概要紹介（1分×6班）

3. 振り返り 14:35 メンバー全員から振り返りコメントを発表
～途中に休憩をはさみます～

4. おわりに 16:15 閉会のごあいさつ

16:20 記念撮影

16:30 終了

2. ユニバーサルデザインの取組記録誌

記録誌作成の目的

大阪パビリオンのユニバーサルデザインの取組みを万博レガシーとして継承し、アフター万博における当事者参画による施設づくりや運営検討を進める事業者に参加してもらうため、また研究者の事例研究に活用していただくことを目的に作成します。

スケジュール

3月13日 本日のワークショップの意見の原稿への反映完了

3月26日 校正完了

4月中旬 記録誌を発送

発行部数・配布先

- 150部製本し、図書館等の公共施設、国土交通省、大阪府等自治体、UD推進チームのみなさんなどに配布
- ウェブサイトに掲載（大阪府と調整中）

本日の意見交換していただきたいポイント

1. 記録の漏れや認識に間違いがないか
2. 第2章 取組みの項目や内容に漏れなどがいないか
3. 第3章は、今後の当事者参画による事業の参考となるよう、UD推進チームがワークショップを円滑に進めるため留意、工夫した内容を記載しています。ほかに追加した方が良い内容や、こういう工夫がほしかったなどの反省はないでしょうか。
4. 第4章 取組成果は、UD推進チームが特にレガシーとして広く発信したい内容です。ご確認ください。

記録誌の構成内容（80～90ページで構成）

- 1章・・・概要
- 2章・・・取組み内容
- 3章・・・ワークショップの開催手順
- 4章・・・当事者参画の先導となる成果（レガシー）
- 5章・・・UD推進チームメンバーのコメント
- 6章・・・ワークショップの開催実績

現在の原稿は、表現等の検討が十分ではありません。
本日の意見も踏まえ、ブラッシュアップを続けます。

以下の資料編はWEBサイトでの提供を予定しています（大阪府と調整中）

【資料編】

- 1章・・・ワークショップの開催実績の概要（配布資料等）
- 2章・・・データ・参考資料

アンケート等は、現在分析途中のものもございます。

1章 概要

1.1 UD取組みの経緯、目的

1.2 UD取組みの体制

1.3 UD取組みの全体の流れ

1.3.1 ヒアリングと実施方針

1.3.2 みんなトイレ

1.3.3 ワークショップ（建築、展示、運営、事前情報）

1.3.4 会期中検証

1.3.5 閉幕後の発信

1.4 大阪ヘルスケアパビリオンの概要

2章 取組み内容

2.1 みんなトイレ

2.2 カームダウン・クールダウンルーム

2.3 移動・災害時の避難

2.4 展示物（ミライのライド、サイン、カラダ測定ポッド）

2.5 ナビレンス（音声による案内）

2.6 アテンダント研修

2.7 事前情報提供

2.8 会期中の調査、発信

2.8.1 視察受け入れ

2.8.2 アンケート等調査

2.8.3 UDひろば

2.9 閉幕後の取組み

2章 取組み内容

項目ごとにこれまでの取組みと会期中の状況も含めています

2.1 みんなトイレ

2.2 カームダウン・クールダウンルーム

2.3 移動・災害時の避難

2.4 展示物（ミライのライド、サイン、カラダ測定ポッド）

2.5 ナビレンス（音声による案内）

2.6 アテンダント研修

2.7 事前情報提供



通信
れ
等

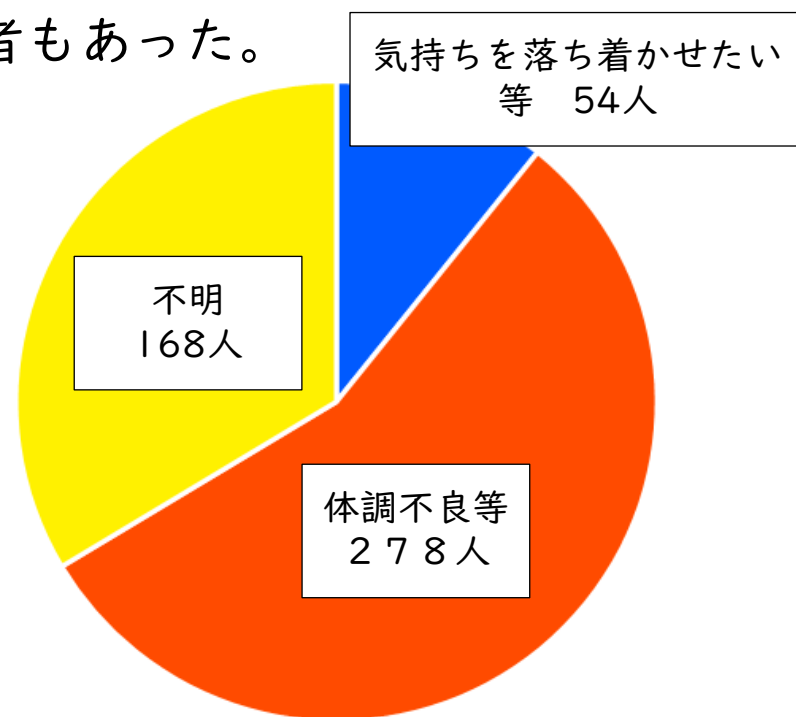


2.9 閉幕後の取組み

2.2 カームダウン・クールダウンルーム

会期中の利用実績

- ・自由利用としていたため、把握できた数が500回であった。
- ・パニックを落ち着かせたい、人込みや大きな音から避難したい、といった利用があった。
- ・春から秋に開催された万博ということもあり、7月から9月には体調不良や休みたいといった利用が多くみられた。また、VRゴーグルの体験で気分が悪くなった等の理由で利用する来館者もあった。



2章 取組み内容

2.1 みんなトイレ

2.2 カームダウン・クールダウンルーム

2.3 移動・災害時の避難

2.4 展示物（ミライのライド、サイン、カラダ測定ポッド）

2.5 ナビレンス（音声による案内）

2.6 アテンダント研修

2.7 事前情報提供

2.8 会期中の調査、発信

2.8.1 視察受け入れ

2.8.2 アンケート等調査

2.8.3 UDひろば

2.9 閉幕後の取組み

2.8 会期中の発信、調査

2.8.1 視察等の受け入れ

パビリオンのUDを広く周知するため、関係者による視察を積極的に受け入れた。主な視察者：大阪府建築環境課、博覧会協会USチーム、東北福祉大学・日建設計、ネクストビジョン

2.8.2 アンケート等現地調査

- ①みんなトイレ利用者アンケート（TOTOさんよりご紹介）
- ②UD推進チームによる現地調査
- ③UD全体アンケート

対象：視察等でパビリオンを体験した方/WEB方式 回答数：56

調査項目：カームダウン、リボーン体験、ナビレンス、アテンダント、事前情報提供（結果は資料編に掲載）



2.8 会期中の発信、調査

2.8.3 UDひろば

- ・ UDひろばを8月18日からオープンし、UDの取り組みを紹介
- ・ たまご型のカードに来館者の想いを記入する参加型展示を実施
- ・ 記入されたコメントの一例
 - ・ 家族と一緒にトイレに入れて、楽しかった
 - ・ この考え方、この設計が今後のまちづくりに活用されますように
 - ・ みんなが幸せで暮らしやすい世界に！！

UDへの思い	1,113	32.5%
UD：みんなトイレ	133	3.9%
万博やパビリオンの感想、絵など	2,174	63.6%
	3,420	100.0%

全3,420枚のカードに記載内容の分類



3章 ワークショップの開催手順

3.1 事前の準備

- 3.1.1 企画
- 3.1.2 当事者の参加に要する経費（報酬費や交通費）
- 3.1.3 ワークショップ開催までのスケジュール
- 3.1.4 参加者の理解を深めるための配慮
- 3.1.5 視覚障がい者への配慮
- 3.1.6 聴覚障がい者への配慮
- 3.1.7 車いす使用者への配慮

3.2 当日の対応

- 3.2.1 最寄り駅からの会場までの案内
- 3.2.2 ゆっくりと分かりやすい説明
- 3.2.3 実物による大きさの確認
- 3.2.4 班によるワークショップ
- 3.2.5 各班の発表
- 3.2.6 休憩時間

3.3 ワークショップ終了後

- 3.3.1 ワークショップの結果まとめ
- 3.3.2 当日参加できなかった当事者メンバーへの説明

4章 当事者参画の先導となる成果（レガシー）

4.1 進め方そのもののユニバーサル化～当事者参画のプロセス～

4.1.1 情報保障の徹底

4.1.2 ユニバーサルな進行

4.1.3 その他参画にあたっての配慮

4.2 多様な当事者の参加

4.3 ハードからソフトまで一貫した当事者参画

4.4 総括

5章 UD推進チームメンバーのコメント

5.1 エキスパート

5.2 お困りごと当事者

5.3 作り手企業

5.4 業務受託者

5.5 事務局

6章 ワークショップの開催実績

6.1.1 ワークショップ（第1回）の概要

6.1.2 ワークショップ（第2回）の概要

6.1.3 ワークショップ（第3回）の概要

・

・

・

・

6.1.3 ワークショップ（第16回）の概要

【資料編 1章】 ワークショップ（資料編）

ワークショップの時の資料や事後のメールで送付した資料などを保存する予定です。

1.1 ワークショップ（第1回）

1.1.1 概要

1.1.2 資料

1.1.3 ワークショップ前後に送付したまとめ等 （ない回もある。議事メモ含む）

1.2 ワークショップ（第2回）

・

・

1.16 ワークショップ（第16回）の概要 ←本日の概要となります。

2.1 調査記録

2.1.1 みんなトイレ

2.1.1.1 みんなアンケート (TOTO)

2.1.1.2 トイレ移動ログ (TOTO)

2.1.1.3 トイレ着座ログ (TOTO)

2.1.1.4 トイレ鍵操作ログ (シブタニ)

2.1.2 UD全体アンケート (法人)

2.1.3 カームダウン・クールダウンルーム利用実績 (法人)

2.1.4 たまごカード (法人)

2.1.5 対話調査 (石塚先生より)

ディスカッション（20分）

本日の意見交換していただきたいポイント

1. 記録の漏れや認識に間違いがないか
2. 第2章 取組みの項目や内容に漏れなどがいないか
3. 第3章は、今後の当事者参画による事業の参考となるよう、UD推進チームがワークショップを円滑に進めるため留意、工夫した内容を記載しています。ほかに追加した方が良い内容や、こういう工夫がほしかったなどの反省はないでしょうか。
4. 第4章 取組成果は、UD推進チームが特にレガシーとして広く発信したい内容です。ご確認ください。

意見まとめ

1章 概要と3章 ワークショップの開催手順に関すること

ご意見	対応
進め方のきっかけや実施設計前（基本設計段階）からの意見交換したこと等をもっと記載してもよい	1章の記載をブラッシュアップする
「性別」という表記について「SOGIESC」と表記した方がよい（協会USGLにも記載がある）	1章の表現を検討する
記録誌で使われる用語について巻末に用語集などがあると良い	一般的でない用語はできるだけ解説や注釈をつける
知的障がいや自閉症の方に対しても事務局や他の当事者もよく声掛けしてくれた。このような受け入れる場の雰囲気が必要であることを記載するとよい	3章の導入部分に記載する
グループ討議では他の当事者の特性を知ることができ、様々な気づきがあったので、それを工夫として記載するとよい	3章の記載をブラッシュアップする
UDトークの機器は当事者が持参したものをシェアしていたが、事務局側で準備をすべき	3章に反省点として追記する
聴覚障がい者に必要な情報保障は、人により異なることをわかるようにした方がよい	3章の聴覚障がい者への配慮の記載をブラッシュアップする

2章の各取組みに関すること

ご意見	対応
みんなトイレのアンケートの結果に考察や分析があるとよい	2.1 みんなトイレに記載する
カームダウン・クールダウンルームのワークショップで困りごとが異なる方の意見に違いがあり白熱した。どのように「成解」を見つけたかプロセスを記載するとよい	2.2 カームダウン・クールダウンルームに対話の経過を記載する
みんな一緒に楽しめることを優先順位とし、ライドの計画が当初から変わったことを触れるとよい	2.3 移動・災害時の避難の記載をブラッシュアップする
PVのUD方針を協賛企業に伝えてきたことや企業ブースのUDについての工夫を記載すると良い	2.4 展示物に企業展示ブースの項目を追記する
2.4 展示物の表にある「UD手話」は表現が誤っている	修正し、記載をブラッシュアップする
音声により楽しめることがあることを伝えてほしい	2.5 ナビレンスの記載をブラッシュアップする
シカイやナビレンスによりスタッフがいる場所までたどり着けたことが良かったので記載するとよい	2.5 ナビレンスに記載する。また、UD全体アンケート(ナビレンスの項目)の結果も追記載する
取組の中でできなかったことも記載するとよい(視覚障がい者では、トイレの空き状況の確認やカラダ測定ポッドでの脳ランク測定)	2章の各取組みに記載する なお、2.5 ナビレンスの項目を視覚情報が得にくい人への対応にタイトルを変更する
異なる障がい種別の意見の違いを共有し、最終的にどのような形になったかがわかるとよい	2章の各取組みに追記する
「テキストデータ」は「ワードデータ」と表現した方がよい	修正する

1 ページ目

(表紙)

タイトル:大阪ヘルスケアパビリオン UD 推進チーム最終 UD ワークショップ
令和8年(2026年)3月2日(月)13時30分から16時30分まで
プリムローズ大阪 2階 羽衣の間

2 ページ目

(タイトル)

参加メンバー・班分け

(内容)

班の構成(表)※順不同・敬称略

- ・A 班 当事者メンバー、作り手企業、受託者、事務局、計9名
- ・B 班 当事者メンバー、作り手企業、受託者、事務局、計9名
- ・C 班 当事者メンバー、作り手企業、受託者、事務局、計9名
- ・D 班 当事者メンバー、作り手企業、受託者、事務局、計9名
- ・E 班 当事者メンバー、作り手企業、受託者、事務局、計9名
- ・F 班 当事者メンバー、作り手企業、受託者、事務局、計11名
- ・事務局 進行:事務局、サポート:事務局、撮影:事務局
- ・オブザーバー 近畿地方整備局、大阪府建築環境課、福祉部、大阪市(元事務局)、アテンダント

3 ページ目

(タイトル)

会場レイアウト(羽衣の間)

(内容)

会場の平面図。部屋の大きさは横が 13.2 メートル、奥行きが 9.75 メートル。丸テーブルが奥と手前に3つずつ。奥の左からA、B、C、手前左からD、E、Fと並んでいる。

4 ページ目

(タイトル)

本日の流れ (オンライン参加あり)

(説明文)

1. はじめに 13:30 ごあいさつ、進行の確認
2. ワークショップ「ユニバーサルデザインの取組記録誌」
13:35 UD 取組記録誌の概要説明(15分)
 - ・作成の目的等
 - ・意見交換していただきたいポイント
 - ・記録誌の構成と概要
 - ・みんなトイレ利用調査

13:50 質疑 (15分)

13:05 班ごとにディスカッション(20分)

14:25 各班(事務局)から意見交換の概要紹介(1分×6班)

3. 振り返り 14:35 メンバー全員から振り返りコメントを発表
～途中に休憩をはさみます～

4. おわりに 16:15 閉会のごあいさつ

16:20 記念撮影

16:30 終了

5ページ目

タイトルページ:2. ユニバーサルデザインの取組記録誌

6ページ目

(説明文)

○ 記録誌作成の目的

大阪パビリオンのユニバーサルデザインの取組みを万博レガシーとして継承し、アフター万博における当事者参画による施設づくりや運営検討を進める事業者に参考としてもらうため、また研究者の事例研究に活用していただくことを目的に作成します。

○ スケジュール

3月13日 本日のワークショップの意見の原稿への反映完了

3月26日 校正完了

4月中旬 記録誌を発送

○ 発行部数・配布先

150部製本し、図書館等の公共施設、国土交通省、大阪府等自治体、UD推進チームのみなさんなどに配布
ウェブサイトに掲載(大阪府と調整中)

7ページ目

(説明文)

当日の意見交換していただきたいポイント

1. 記録の漏れや認識に間違いがないか
2. 第2章 取組みの項目や内容に漏れなどがないか
3. 第3章は、今後の当事者参画による事業の参考となるよう、UD推進チームがワークショップを円滑に進めるため留意、工夫した内容を記載しています。ほかに追加した方が良い内容や、こういう工夫がほしかったなどの反省はないでしょうか。
4. 第4章 取組成果は、UD推進チームが特にレガシーとして広く発信したい内容です。ご確認ください

8ページ目

(タイトル)

記録誌の構成内容(80～90 ページで構成)

(説明文)

1 章・・・概要

2 章・・・取組み内容

3 章・・・当事者参画の先導となる成果(レガシー)

4 章・・・ワークショップの開催手順

5 章・・・UD 推進チームメンバーのコメント

6 章・・・ワークショップの開催実績

以下の資料編は WEB サイトでの提供を予定しています(大阪府と調整中)

【資料編】

1 章・・・ワークショップの開催実績の概要(配布資料等)

2 章・・・データ・参考資料

9 ページ目

(タイトル)

1章 概要

(説明文)

1.1 UD 取組みの経緯、目的

1.2 UD 取組みの体制

1.3 UD 取組みの全体の流れ

1.3.1 ヒアリングと実施方針

1.3.2 みんなトイレ

1.3.3 ワークショップ(建築、展示、運営、事前情報)

1.3.4 会期中検証

1.3.5 閉幕後の発信

1.4 大阪ヘルスケアパビリオンの概要

10 ページ目

(タイトル)

2 章 取組み内容

(説明文)

2.1 みんなトイレ

2.2 カームダウン・クールダウンルーム

2.3 移動・災害時の避難

2.4 展示物(ミライのライド、サイン、カラダ測定ポッド)

2.5 ナビレンス(音声による案内)

2.6 アテンダント研修

- 2.7 事前情報提供
- 2.8 会期中の調査、発信
 - 2.8.1 視察受け入れ
 - 2.8.2 アンケート等調査
 - 2.8.3 UDひろば
- 2.9 閉幕後の取組み

11 ページ目

(タイトル)

2 章 取組み内容

(説明文)

下記項目ごとにこれまでの取組みと会期中の状況も含めています。

- 2.1 みんなトイレ
- 2.2 カームダウン・クールダウンルーム
- 2.3 移動・災害時の避難
- 2.4 展示物(ミライのライド、サイン、カラダ測定ポッド)
- 2.5 ナビレンス(音声による案内)
- 2.6 アテンダント研修
- 2.7 事前情報提供

(写真)

左:班ごとのワークショップで「福笑い方式」の模型を使ってトイレのプランを検討している様子

中央:リフトライドの大きさを実物大モックアップで確認している様子

右:アテンダント研修(座学)の様子

12 ページ目

(タイトル)

2.2 カームダウン・クールダウンルーム

(説明文)

会期中の利用実績

- ・自由利用としていたため、把握できた数が500回であった。
- ・パニックを落ち着かせたい、人込みや大きな音から避難したい、といった利用があった。
- ・春から秋に開催された万博ということもあり、7月から9月には体調不良や休みたいといった利用が多くみられた。また、VR ゴーグルの体験で気分が悪くなった等の理由で利用する来館者もあった。

(図)

カームダウン・クールダウンルームを利用した理由の内訳を表した円グラフ:内訳は、気持ちを落ち着かせたい等が 54 人、体調不良等が 278 人、不明が 168 人

13 ページ目

(タイトル)

2章 取組み内容

(説明文)※下記の2.8 会期中の調査、発信から2.9 閉幕後の取組みまでを赤で四角囲み

2.1 みんなトイレ

2.2 カームダウン・クールダウンルーム

2.3 移動・災害時の避難

2.4 展示物(ミライのライド、サイン、カラダ測定ポッド)

2.5 ナビレンス(音声による案内)

2.6 アテンダント研修

2.7 事前情報提供

2.8 会期中の調査、発信

2.8.1 視察受け入れ

2.8.2 アンケート等調査

2.8.3 UD ひろば

2.9 閉幕後の取組み

14 ページ目

(タイトル)

2.8 会期中の発信、調査

(説明文)

2.8.1 視察等の受け入れ

パビリオンの UD を広く周知するため、関係者による視察を積極的に受け入れた。主な視察者:大阪府建築環境課、博覧会協会 US チーム、東北福祉大学・日建設計、ネクストビジョン

2.8.2 アンケート等現地調査

①みんなトイレ利用者アンケート(TOTO さんよりご紹介)

②UD 推進チームによる現地調査

③UD 全体アンケート

対象:視察等でパビリオンを体験した方/WEB 方式 回答数:56

調査項目:カームダウン、リボーン体験、ナビレンス、アテンダント、事前情報提供(結果は資料編に掲載)

(写真)

左:アンケート後に来館者2名がみんなトイレ前のコンセプトボードをじっくり見ている様子

中央:UD推進チームによる現地調査で、リボーンバンドを発行している様子

右:UD推進チームによる現地調査で、アテンダントが視覚障がい者を誘導する様子

15 ページ目

(タイトル)

2.8 会期中の発信、調査

(説明文)

2.8.3 UD ひろば

- ・UDひろばを8月18日からオープンし、UDの取組みを紹介
- ・たまご型のカードに来館者の想いを記入する参加型展示を実施
- ・記入されたコメントの一例
 - ・家族と一緒にトイレに入れて、楽しかった
 - ・この考え方、この設計が今後のまちづくりに活用されますように
 - ・みんなが幸せで暮らしやすい世界に！！

(表)

たまご型カード3420枚の記載内容の分類表

「UDへの想い」に関するメッセージが1113枚(32.5%)、「みんなトイレ」に関するメッセージが133枚(3.9%)、万博やパビリオンの感想、絵などが2174枚(63.6%)であった。

(写真)

左:大阪ヘルスケアパビリオンのUDひろば。左側にパビリオンロゴマークの形をしたボードがあり、そこにはたくさんのたまご型メッセージカードがかかっている。右側にはパビリオンのユニバーサルデザインの取組みを紹介したボードがあり、その手前にメッセージを記載する机が置いてある。

右:来館者がたまご型カードにメッセージを記載する様子

16 ページ目

(タイトル)

3章 ワークショップの開催手順

(説明文)

3.1 事前の準備

- 3.1.1 企画
- 3.1.2 当事者の参加に要する経費(報酬費や交通費)
- 3.1.3 ワークショップ開催までのスケジュール
- 3.1.4 参加者の理解を深めるための配慮
- 3.1.5 視覚障がい者への配慮
- 3.1.6 聴覚障がい者への配慮
- 3.1.7 車いす使用者への配慮

3.2 当日の対応

- 3.2.1 最寄り駅からの会場までの案内
- 3.2.2 ゆっくりと分かりやすい説明
- 3.2.3 実物による大きさの確認
- 3.2.4 班によるワークショップ
- 3.2.5 各班の発表
- 3.2.6 休憩時間

3.3 ワークショップ終了後

- 3.3.1 ワークショップの結果まとめ

3.3.2 当日参加できなかった当事者メンバーへの説明

17 ページ目

(タイトル)

4章 当事者参画の先導となる成果(レガシー)

(説明文)

4.1 進め方そのもののユニバーサル化～当事者参画のプロセス～

4.1.1 情報保障の徹底

4.1.2 ユニバーサルな進行

4.1.3 その他参画にあたっての配慮

4.2 多様な当事者の参加

4.3 ハードからソフトまで一貫した当事者参画

4.4 総括

18 ページ目

(タイトル)

5章 振り返り(UD 推進チームメンバー)

(説明文)

エキスパート

お困りごと当事者

作り手企業

業務受託者

事務局

19ページ目

(タイトル)

【資料編】 ワークショップの開催実績

(説明文)

ワークショップ(第1回)の概要

ワークショップ(第2回)の概要

以下同様に、3～15 回

ワークショップ(第 16 回)の概要

ここまでの内容が冊子となります。

20ページ目

(タイトル)

【データ編】 1 ワークショップ(資料)

(説明文)

ワークショップ時の資料や事後のメールで送付した資料等を保存予定です。

1.1 ワークショップ(第1回)

1.1.1 概要

1.1.2 資料

1.1.3 ワークショップ前後に送付したまとめ等(ない回もある。議事メモ含む)

1.2 ワークショップ(第2回)

・
・

1.16 ワークショップ(第16回)の概要 ←本日の概要となります。

21ページ目

(タイトル)

【データ編】 2 データ・参考資料

(説明文)

2.1.1 みんなトイレ

2.1.1.1 みんなアンケート(TOTO)

2.1.1.2 トイレ移動ログ(TOTO)

2.1.1.3 トイレ着座ログ(TOTO)

2.1.1.4 トイレ鍵操作ログ(シブタニ)

2.1.2 UD 全体アンケート(法人)

2.1.3 カームダウン・クールダウンルーム利用実績(法人)

2.1.4 たまごカード(法人)

2.1.5 対話調査(石塚先生より)

以上で終わりです。

3月2日ユニバーサルデザインワークショップのまとめ

1 ページ目

(表紙)

イラスト:大阪パビリオンのロゴマーク

タイトル:3月2日最終 UD ワークショップ UD 記録誌に関する意見と対応

2 ページ目

タイトル:1章概要と3章ワークショップの開催手順に関すること

内容:ご意見と対応の表

意見:進め方のきっかけや実施設計前(基本設計段階)からの意見交換したこと等をもっと記載してもよい。

対応:1章の記載をブラッシュアップする。

意見:性別という表記についてソジエスクと表記したほうがよい、協会 USGL にも記載がある。

対応:1章の表現を検討する。

意見:記録誌で使われる用語について巻末に用語集などがあると良い。

対応:一般的でない用語はできるだけ解説や注釈をつける。

意見:知的障がいや自閉症の方に対しても事務局や他の当事者もよく声掛けしてくれた。このような受け入れる場の雰囲気が必要であることを記載するとよい。

対応:3章の導入部分に記載する。

意見:グループ討議では他の当事者の特性を知ることができ、様々な気づきがあったので、それを工夫として記載するとよい。

対応:3章の記載をブラッシュアップする。

意見:UDトークの機器は当事者が持参したものをシェアしていたが、事務局側で準備をすべき。

対応:3章に反省点として追記する。

意見:聴覚障がい者に必要な情報保障は、人により異なることをわかるようにした方がよい。

対応:3章の聴覚障がい者への配慮の記載をブラッシュアップする。

3 ページ目

タイトル:2章の各取組みに関すること

内容:ご意見と対応の表

意見:みんなトイレのアンケートの結果に考察や分析があるとよい。

対応:2.1 みんなトイレに記載する。

意見:カームダウン・クールダウンルームのワークショップで困りごとが異なる方の意見に違いがあり白熱した。どのように「成解」を見つけたかプロセスを記載するとよい。

対応:2.2 カームダウン・クールダウンルームに対話の経過を記載する。

意見:みんな一緒に楽しめることを優先順位とし、ライドの計画が当初から変わったことを触れるとよい。

対応:2.3 移動・災害時の避難の記載をブラッシュアップする。

意見:PVのUD方針を協賛企業に伝えてきたことや企業ブースのUDについての工夫を記載すると良い。

対応:2.4 展示物に企業展示ブースの項目を追記する。

意見:2.4 展示物の表にある「UD手話」は表現が誤っている。

対応:修正し、記載をブラッシュアップする。

意見:音声により楽しめることがあることを伝えてほしい。

対応:2.5 ナビレンスの記載をブラッシュアップする。

意見:シカイやナビレンスによりスタッフがいる場所までたどり着けたことが良かったので記載するとよい。

対応:2.5 ナビレンスに記載する。また、UD全体アンケート(ナビレンスの項目)の結果も追記載する。

意見:取組の中でできなかったことも記載するとよい(視覚障がい者では、トイレの空き状況の確認やカラダ測定ポッドでの脳ランク測定)

対応:2章の各取組みに記載する。なお、2.5 ナビレンスの項目を視覚情報が得にくい人への対応にタイトルを変更する。

意見:異なる障がい種別の意見の違いを共有し、最終的にどのような形になったかがわかるとよい。

対応:2章の各取組みに追記する。

意見:「テキストデータ」は「ワードデータ」と表現した方が良い。

対応:修正する。

以上で終わりです。

2025年大阪・関西万博 大阪ヘルスケアパビリオン みんなトイレ 利用調査報告



施主：公益社団法人2025年日本国際博覧会大阪パビリオン
竣工年月：2024年10月
会期：2025年4月13日～10月13日

利用回数調査 (着座回数)



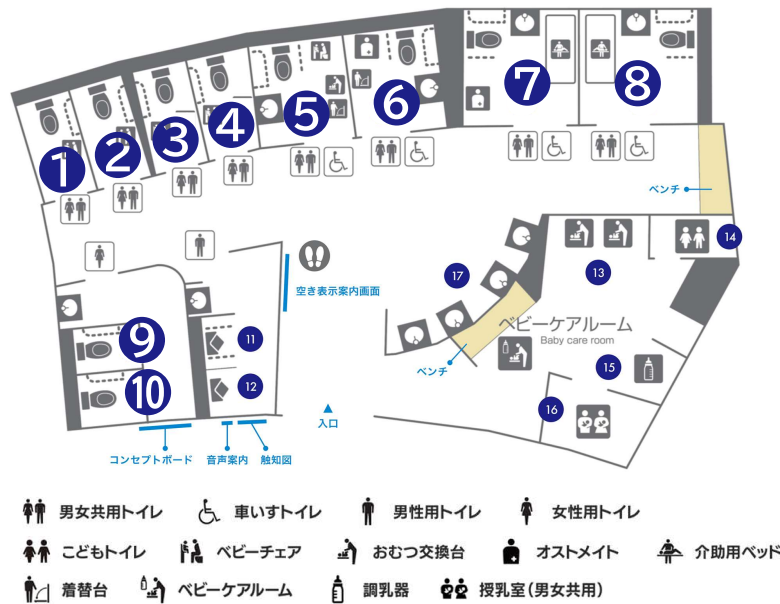
利用実態調査 (ヒアリング)



利用回数調査 | 着座回数 (トイレの便座に座った回数をカウント)

**共用 (小) と女性用は、利用回数がほぼ同程度
共用は空間が広くなるほど利用が減少する傾向**

着座回数 (1時間平均最大12回)
最大**26,000** 回以上



(出典 | 大阪ヘルスケアパビリオンWEBサイト)

項目	画像 (一例)	番号	総着座回数	1日平均※1	1時間平均※2
共用小		①	20173	110	9
		②	20376	111	9
		③	23653	129	11
		④	26758	145	12
共用中		⑤	13729	75	6
		⑥	13966	76	6
共用大		⑦	10453	57	5
		⑧	9065	49	4
女性用		⑨	26543	144	12
		⑩	23452	127	11

小数点以下四捨五入

※1 | 1日平均 総着座回数を会期184日間で計算した1日あたりの数 ※2 | 1時間平均 総着座回数を1日12時間で計算した1時間あたりの数

出典：「大阪ヘルスケアパビリオン『みんなトイレ』利用回数調査」(2025)
主催：大阪ヘルスケアパビリオン「UD推進チーム」

利用回数調査



利用実態調査
(ヒアリング)



調査概要 | 大阪ヘルスケアパビリオン「みんなトイレ」

調査主催	大阪ヘルスケアパビリオン「UD推進チーム」※
調査対象者	2025大阪・関西万博 大阪ヘルスケアパビリオン「みんなトイレ」利用者
調査方法	調査員がトイレ前に待機し、 トイレを利用して出てこられた利用者 にインタビュー形式で調査
調査期間	2025年8月23日(土)・24日(日)・25日(月)・ 28日(木)・29日(金) 計5日間
回収数	400件



調査イメージ

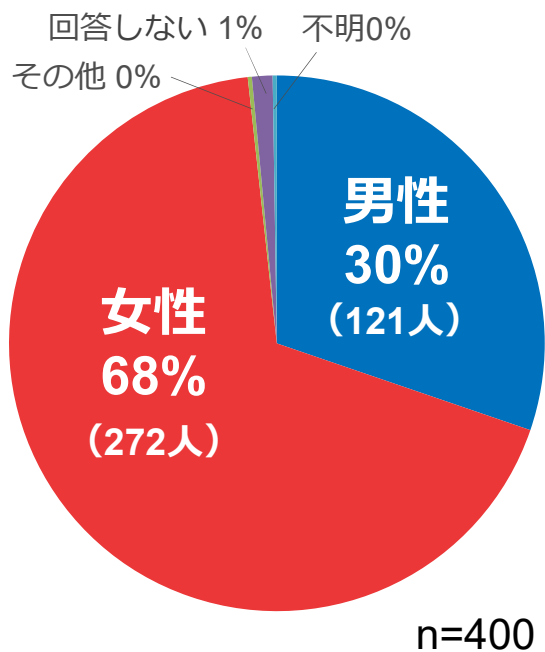
※大阪ヘルスケアパビリオン「UD推進チーム」

車いす使用者やさまざまな障がいのある方、性的マイノリティ、子育て中の方など、従来のトイレに不便を感じていた「お困りごと当事者」が中心となり、学識経験者やTOTOなどの作り手企業も参加して結成したチーム。

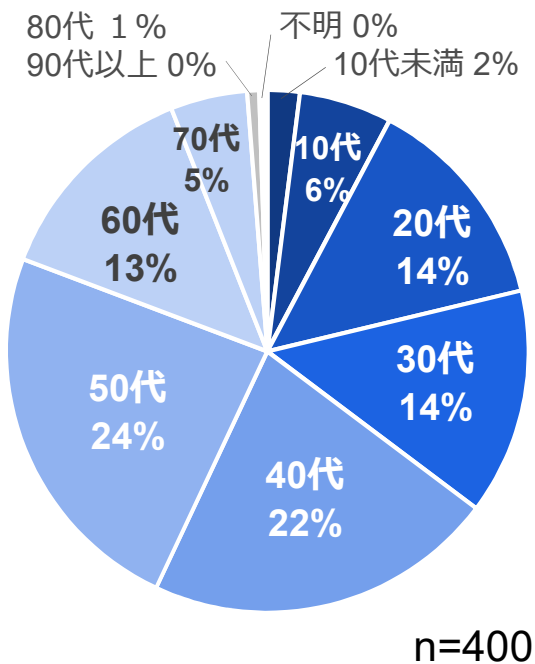
回答者属性

女性272人・男性121人
幅広い年代の方々からご意見をいただきました

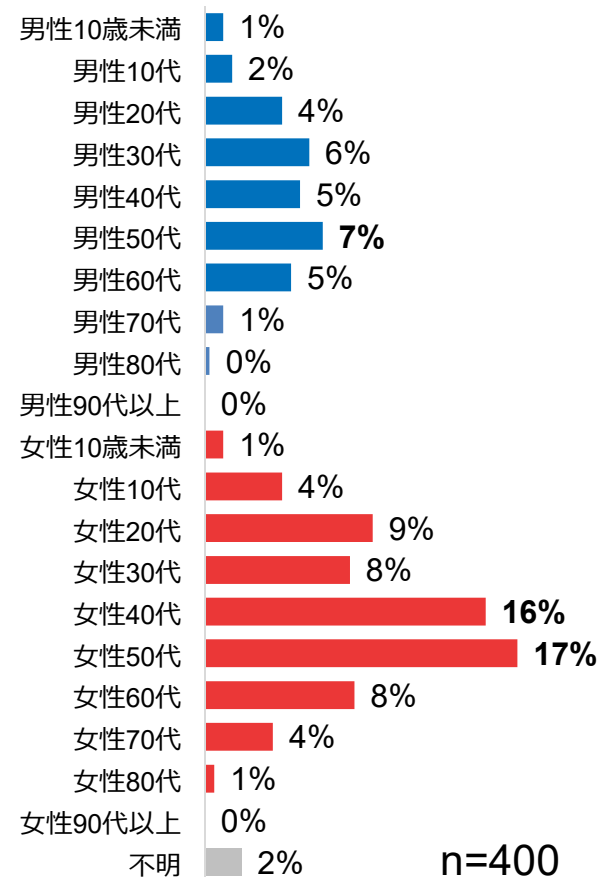
性別



年代



性別×年代



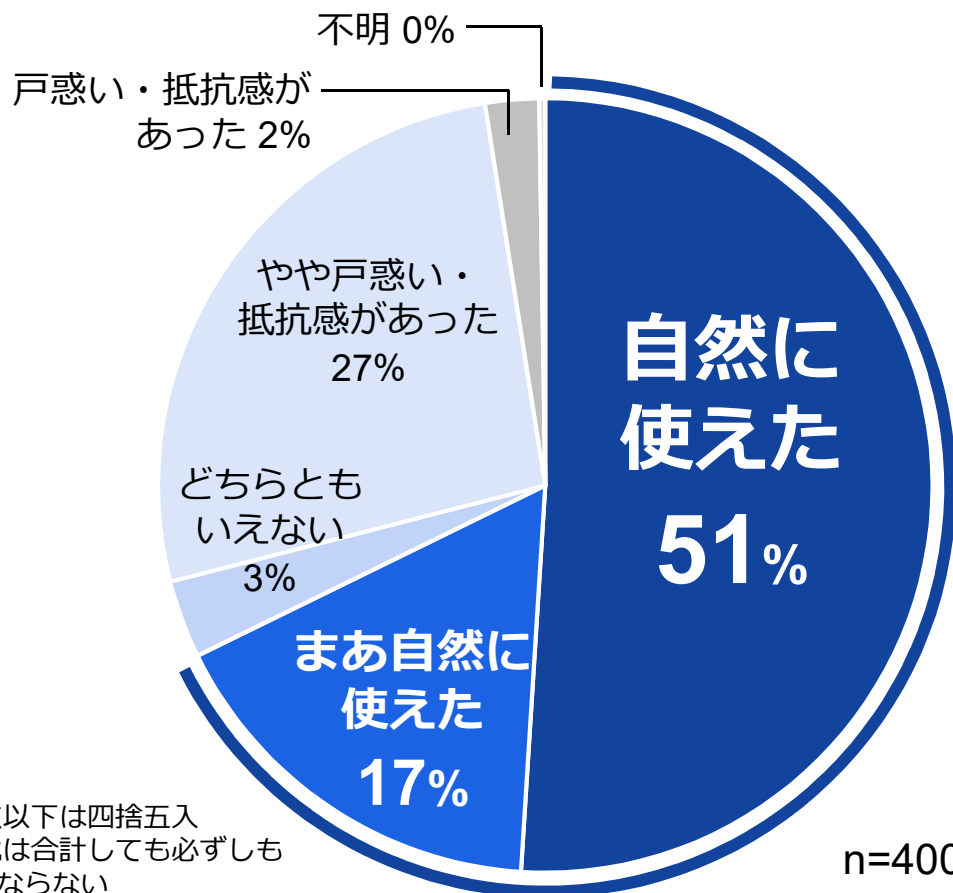
※小数点以下は四捨五入
構成比は合計しても必ずしも100にならない

大阪ヘルスケアパビリオン「みんなトイレ」利用者調査項目

カテゴリー	番号	質問項目
利用実態と意識	1	みんなトイレ使用回数
	2	みんなトイレ抵抗感有無
	3	使用したブース
	4	ブース選択時に役立ったもの
	5	コンセプトボードを読んだか
評価・課題と未来	6	使って感じたこと
	7	世の中に増えるとよいと思うか
	8	安全安心に使えるための工夫
	9	今後利用意向
	10	「オールジェンダートイレ」という言葉の認知
	11	トイレで困ったことの有無 ※これまでの経験として（一般論）
意識の変化	12	トイレに対する意識の変化

利用者の約7割がスムーズに利用
多くの利用者が大きな戸惑いなく利用

Q2 | このトイレは戸惑いや抵抗感なく、自然に使えましたか。



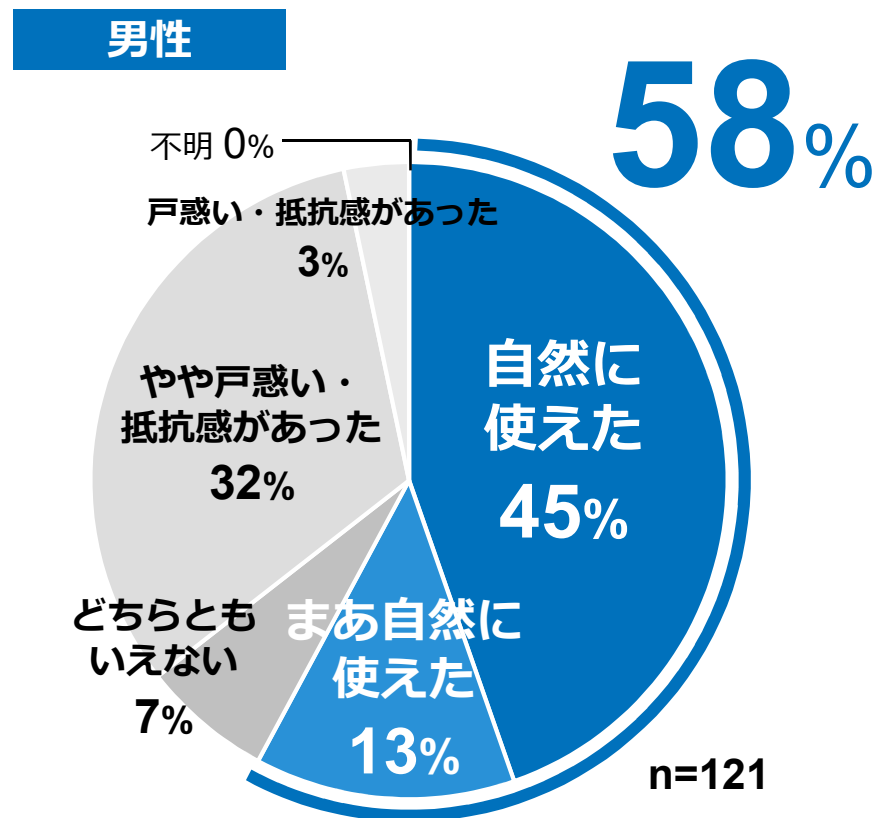
「自然に使えた」
「まあ自然に使えた」

68%

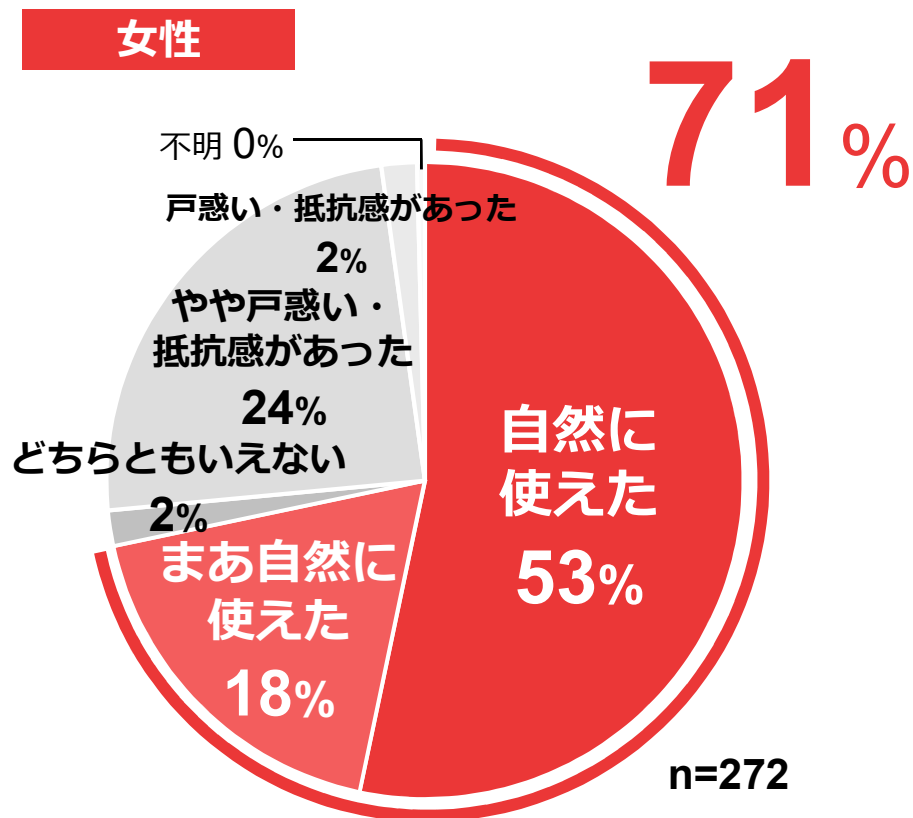
みんなトイレ抵抗感有無（男女別）

男性よりも女性の方が“自然に使えた”と感じた割合が高い
女性の方がスムーズに受け入れている傾向

Q2 | このトイレは戸惑いや抵抗感なく、自然に使えましたか。



※小数点以下は四捨五入



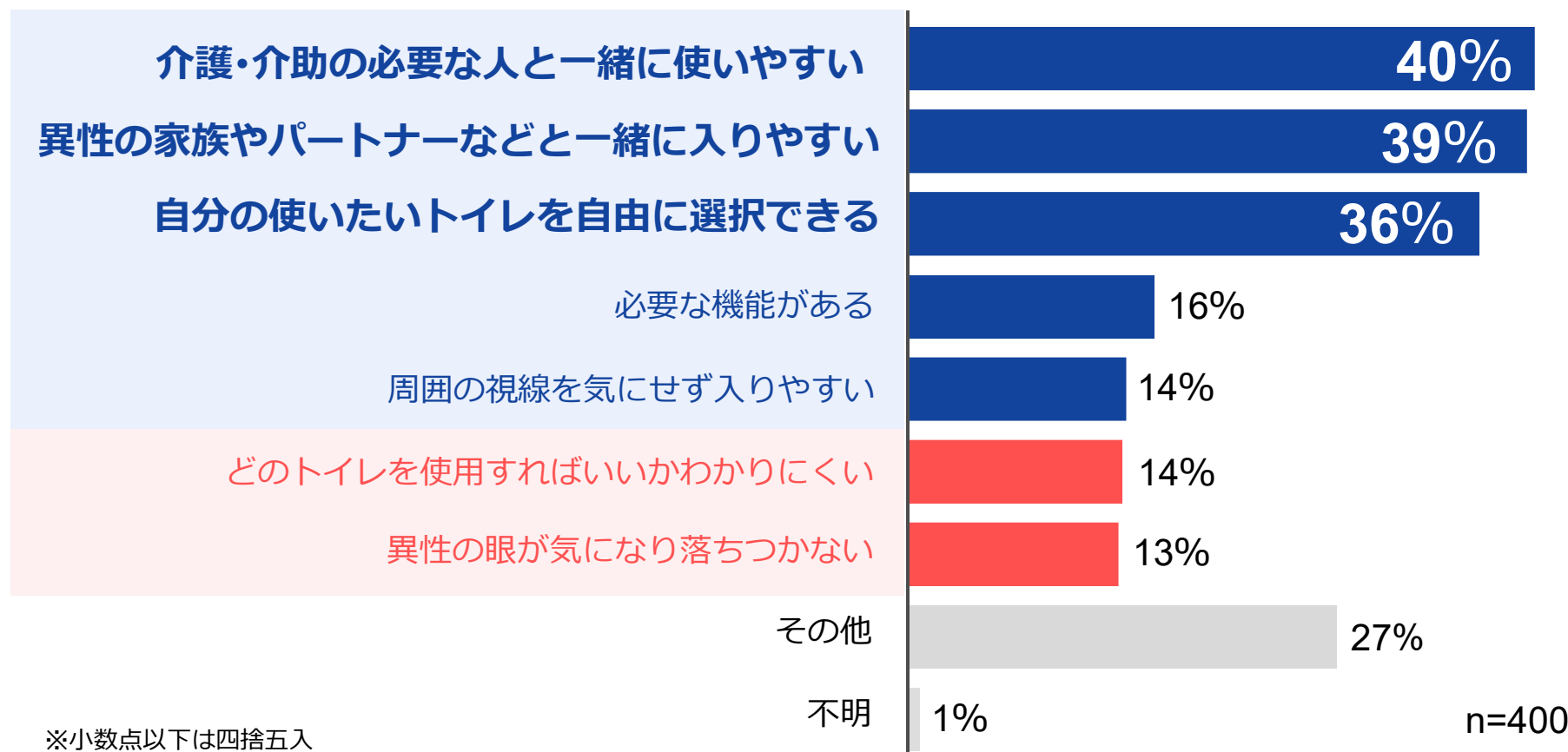
※小数点以下は四捨五入
構成比は合計しても必ずしも 100にならない

使って感じたこと

“みんなトイレ”は、家族・介助・自由な選択を支える
使いやすいトイレとして評価

Q6 | 「みんなトイレ」を使って感じたことについて
良い点・悪い点をお聞かせください。(複数回答可)

■ 良い点
■ 悪い点

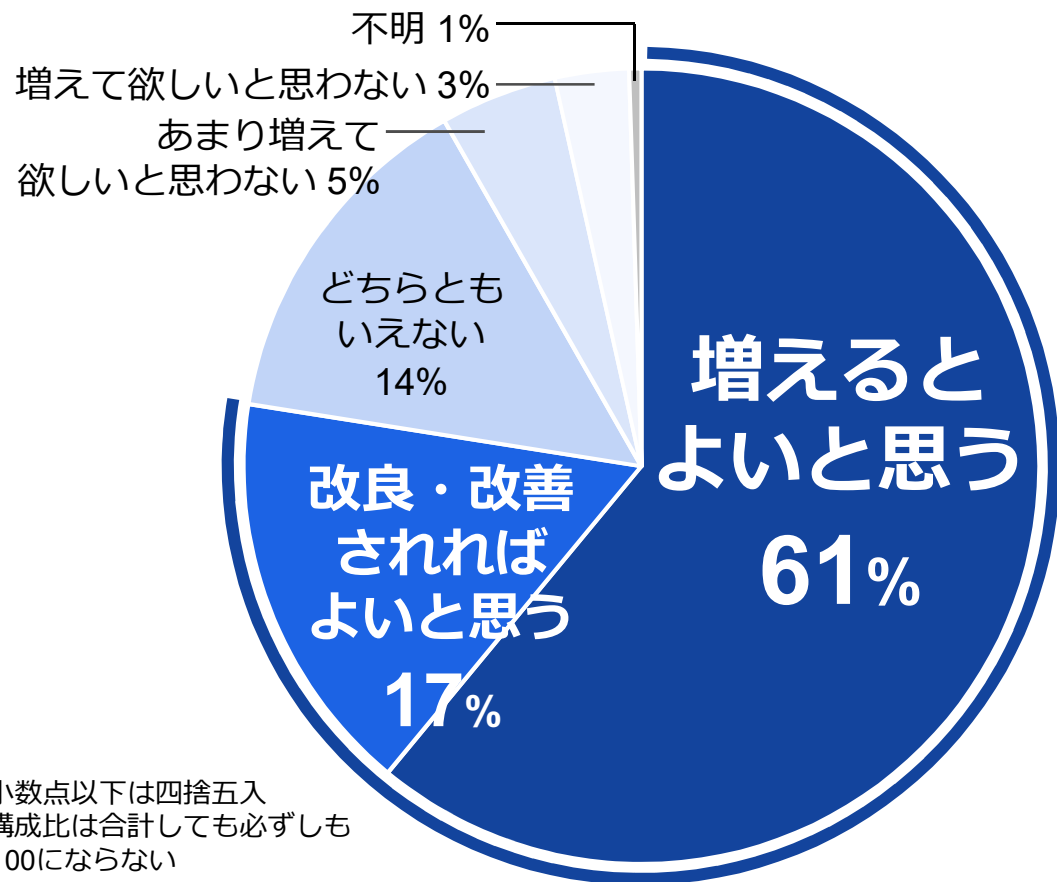


※小数点以下は四捨五入

世の中に増えるとよいと思うか

利用者の6割以上が普及を望んでおり
全体として前向きに受け入れられている

Q7 | あなたは、「このようなトイレ」が世の中に増えると
よいと思いますか。



「増えるとよいと思う」
「改良・改善されれば
よいと思う」

78%

※小数点以下は四捨五入
構成比は合計しても必ずしも
100にならない

n=400

利用実態調査から、「みんなトイレ」は **多様性への理解を深め、利便性や安心感を高める取り組み**として利用者から高い **評価**を得ていることが分かりました。

今後は、こうした利用者の声を踏まえながら、 **より多くの場所での展開や、さらなる改善に向けた取り組み**が期待されます。



TOTOのホームページで、
「みんなトイレ」への
チャレンジを紹介する
コラムが公開されています。

是非、ご覧ください！

TOTO



もっとつながろう、もっと楽しもう ユニバーサルデザイン Story

未来へ歩むヒト・モノ・コトを紹介するコラムです。
https://info.jp.toto.com/ud/style/column_index.htm

Story
30

インタビュー
「だれもが使いやすい、ミライのトイレ」を、当事者とともに
形にする。大阪ヘルスケアバリアフリー「みんなトイレ」の挑戦



詳細はこちら



2025年大阪・関西万博の大阪ヘルスケアバリアフリー「みんなトイレ」は、大阪バリアフリーUD推進チームのメンバーである車いす利用者、視覚障がい者、聴覚障がい者、精神障がい者、知的障がい者、発達障がい者、LGBTQ、医療的ケア児、子育て世帯のさまざまな障がいや特性のある当事者22名とワークショップを重ね、「だれもが使いやすい、ミライのトイレ」をめざして設計・施工・運用されました。その過程ではどのような意見が交わされ、完成したトイレはどのように利用者に受け入れられたのでしょうか。企画・設計に携わった公益社団法人2025年日本国際博覧会大阪バリアフリーの北村伸子さんと、TOTOの仲川選手に話を聞きました。



各種の機能を備えた個室から自分の使いたいトイレを自由に選べる



「面白い形式」手で触れて個室などのピースを配置しながらプランを検討できるようにした図面ボード

国土交通省「高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準」を2025年5月に改正
建築プロジェクトにおける当事者参画を促進するため「建築プロジェクトの当事者参画ガイドライン」が新たに策定されました
<国土交通省ホームページ>
https://www.mlit.go.jp/report/press/house05_hh_001066.html



UDに関する詳しい情報サイトはこちら

TOTOのユニバーサルデザイン



<https://info.jp.toto.com/ud/>



詳細はこちら

※掲載情報は内容が変更される場合があります。ご利用時によりまして異なる場合があります。

1 ページ目

(表紙)

タイトル:2025年大阪・関西万博 大阪ヘルスケアパビリオン みんなトイレ利用調査報告

(写真)

左:大阪ヘルスケアパビリオンの正面からみた写真

右:みんなトイレ内の写真。正面奥に満空表示案内モニター、右側奥から手前に共用トイレ1から6が並ぶ。

(内容)

施主:公益社団法人2025年日本国際博覧会大阪パビリオン

竣工年月:2024年4月13日から10月13日

(左下)

著作権クレジットの記載 TOTO ©TOTOLTLD. ※以下ページ共通

(右下)

調査主催:大阪ヘルスケアパビリオン「UD 推進チーム」2025年8月 ※以下ページ共有

2ページ目

(タイトル)

目次

(図)

左図:利用回数調査(着座回数)、便器に座った人のピクト

右図:利用実態調査(ヒアリング)、アンケートを取っているピクト図

3ページ目

(タイトル)

利用回数調査:着座回数(トイレの便座に座った回数をカウント)

共用(小)と女性用は、利用回数がほぼ同程度

共用は空間が広くなるほど利用が減少する傾向

(内容)

着座回数(1時間平均16回)、最大26000回以上

(図)左側

みんなトイレの平面プラン(出典:大阪ヘルスケアパビリオン WEB サイト)

(表)右側

共用ブース①～⑧と女性用ブース⑨⑩の便器着座の総回数、1日平均、1時間平均が表にまとめられている。

※1日平均は総着座回数を会期184日間で計算した1日あたりの数

※1時間平均は総着座回数を1日12時間で計算した1時間あたりの数

※小数点以下は四捨五入

・共用(小)①:20173回、1日平均110回、1時間平均9回

・共用(小)②:20376回、1日平均111回、1時間平均9回

・共用(小)③:23653回、1日平均129回、1時間平均11回

- ・共用(小)④:26758回、1日平均145回、1時間平均12回
- ・共用(中)⑤:13729回、1日平均75回、1時間平均6回
- ・共用(中)⑥:13966回、1日平均76回、1時間平均6回
- ・共用(大)⑦:10453回、1日平均57回、1時間平均5回
- ・共用(大)⑧:9065回、1日平均49回、1時間平均4回
- ・女性用⑨:26543回、1日平均144回、1時間平均12回
- ・女性用⑩:23452回、1日平均127回、1時間平均11回

4 ページ目

※2ページ目と同じ内容

(タイトル)

目次

(図)

左図:利用回数調査(着座回数)、便器に座った人のピクト

右図:利用実態調査(ヒアリング)、アンケートを取っているピクト図

5ページ目

(タイトル)

調査概要:大阪ヘルスケアパビリオン「みんなトイレ」

(内容)

調査主催:大阪ヘルスケアパビリオン「UD 推進チーム」※

※大阪ヘルスケアパビリオン「UD 推進チーム」車いす使用者やさまざまな障がいのある方、性的マイノリティ、子育て中の方など、従来のトイレに不便を感じていた「お困りごと当事者」が 中心となり、学識経験者やTOTOなどの作り手企業も参加して結成したチーム

調査対象者:2025 大阪・関西万博大阪ヘルスケアパビリオン「みんなトイレ」利用者

調査方法:調査員がトイレ前に待機し、トイレを利用して出てこられた利用者にインタビュー形式で調査

調査期間:2025年8月23日(土)・24日(日)・25日(月)・28日(木)・29日(金)計5日間

回収数:400件

(右図)

調査イメージのイラスト。みんなトイレのコンセプトボード前で調査員が来館者にアンケートを取っている。

6ページ目

(タイトル)

回答者属性

女性272人・男性121人、幅広い年代の方々からご意見をいただきました

(内容)

3つのグラフを記載。

左:性別の内訳を示した円グラフ。女性が68%(272人)、男性30%(121人)、回答しないが1%、その他が

0%、不明が0%。

中央：年代別の内訳を示した円グラフ。10代が6%、20代が14%、30代が14%、40代が22%、50代が24%、60代が13%、70代が5%、80代が1%、90代以上と不明が0%

右：性別ごとに年代を表した棒グラフ。男性は10歳未満が1%、10代が2%、20代が4%、30代が6%、40代が5%、50代が7%、60代が5%、70代が1%、80代が0%、90代以上が0%。女性は10歳未満が1%、10代が4%、20代が9%、30代が8%、40代が16%、50代が17%、60代が8%、70代が4%、80代が1%、90代以上が0%。不明が2%。

7ページ目

(タイトル)

大阪ヘルスケアパビリオン「みんなトイレ」利用者調査項目

(内容)

アンケートの調査項目について「カテゴリー、番号、質問項目」を表形式で記載。

○カテゴリー「利用実態と意識」には1から5の項目

1. みんなトイレ使用回数
2. みんなトイレ抵抗感有無
3. 使用したブース
4. ブース選択時に役立ったもの
5. コンceptボードを読んだか

○カテゴリー「評価・課題と未来」には6～11の項目

6. 使って感じたこと
7. 世の中に増えるとよいと思うか
8. 安全安心に使えるための工夫
9. 今後利用意向
10. 「オールジェンダートイレ」という言葉の認知
11. トイレで困ったことの有無 ※これまでの経験として(一般論)

○カテゴリー「意識の変化」

12. トイレに対する意識の変化

※番号2「みんなトイレ抵抗感有無」と番号12「トイレに対する意識の変化」が太字

8ページ目

(タイトル)

みんなトイレ抵抗感有無

利用者の約7割がスムーズに利用、多くの利用者が大きな戸惑いなく利用

(内容)

Q2 このトイレは戸惑いや抵抗感なく、自然に使いえましたか。

(図)

回答の内訳を円グラフで記載。

- ・「自然に使えた」が51%、「まあ自然に使えた」が17%、「どちらともいえない」が3%、「やや戸惑い・抵抗感があった」が27%、「戸惑い・抵抗感があった」が2%、不明が0%。
- ・円グラフの右側に「自然に使えた」「まあ自然に使えた」68%と記載。

9 ページ目

(タイトル)

みんなトイレ抵抗感有無(男女別)

男性よりも女性の方が“自然に使えた”と感じた割合が高い 女性の方がスムーズに受け入れている傾向

(内容)

Q2 このトイレは戸惑いや抵抗感なく、自然に使えましたか

問いの回答内訳を男性と女性別に円グラフで記載。

(図)

左:男性の回答の内訳を示した円グラフ

- ・「自然に使えた」45%、「まあ自然に使えた」が13%、「どちらともいえない」が7%、「やや戸惑い・抵抗感があった」が32%、「戸惑い・抵抗感があった」が3%、不明が0%。
- ・グラフの右側に「58%」と記載

右:女性の回答の内訳を示した円グラフ

- ・「自然に使えた」53%、「まあ自然に使えた」が18%、「どちらともいえない」が2%、「やや戸惑い・抵抗感があった」が24%、「戸惑い・抵抗感があった」が2%、不明が0%。
- ・グラフの右側に 71%と記載

10 ページ目

(タイトル)

使って感じたこと

“みんなトイレ”は、家族・介助・自由な選択を支える 使いやすいトイレとして評価

(内容)

Q6:「みんなトイレ」を使って感じたことについて良い点・悪い点をお聞かせください。(複数回答可)

(図)

棒グラフで回答内訳を記載。良い点を青、悪い点を赤で表現。

- ・介護・介助の必要な人と一緒に使いやすい:40%
- ・異性の家族やパートナーなどと一緒に入りやすい:39%
- ・自分の使いたいトイレを自由に選択できる:36%
- ・必要な機能がある:16%
- ・周囲の視線を気にせず入りやすい:14%
- ・どのトイレを使用すればいいかわかりにくい:14%
- ・異性の眼が気になり落ちつかない:13%
- ・その他:27%
- ・不明:1%

11 ページ目

(タイトル)

世の中に増えるとういと思うか

利用者の 6 割以上が普及を望んでおり 全体として前向きに受け入れられている

(説明文)

Q7 あなたは、「このようなトイレ」が世の中に増えるとういと思いますか。

(図)

回答の内訳を示した円グラフ

・増えるとういと思う 61%、改良・改善されればよいと思う17%、どちらともいえない14%、あまり増えたほしいと思わない5%、増えてほしいと思わない3%、不明1%。

・グラフの右側に「増えるとういと思う」「改良・改善されれば よいと思う」78%と記載

12 ページ目

(内容)

利用実態調査から、「みんなトイレ」は多様性への理解を 深め、利便性や安心感を高める取り組みとして利用者から高い 評価を得ていることが分かりました。今後は、こうした利用者の声を踏まえながら、より多くの場所での展開や、さらなる改善に向けた取り組みが期待されます。

13 ページ目

(内容)

TOTO のホームページで、「みんなトイレ」へのチャレンジを紹介するコラムが公開されています。是非、ご覧ください。

(図)

右側に照会のちらし

以上で終わりです。